

2025年4月30日（水）

老球の細道 865号

4月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

ウォーキングが健康のためだけでなく厳寒の大雪の冬を乗り越えた草花の鮮やかな色を味わえる季節となった。桜はあっという間に散ってしまったが、菜の花、チューリップ、スイセンなどが歩くモチベーションを高めてくれる。

「新学期カバンの中が夢あふれ」「未来向けばはばたく孫に大エール」〈朝日：みちのく柳壇〉。孫たちもクラスが変わり、学校へのモチベーションが心配されたが、なんとか1か月乗り切った。バスケットも良い指導者に恵まれて順調に続けられている。

1・テレビから

◆「人賢愚ありといえども各々一、二の才能なきはなし。湊合（そうごう）して大成する時は必ず全備する所あらん」〈NHK：歴史探偵・吉田松陰の教育力〉：選手の長所を大切に育てれば、特徴のある選手に育てることができる。松陰は全国を巡って学んでいる時、わが会津にも立ち寄っていた。私も若かりし頃、松陰の情熱と行動力を学ぶために静岡県下田の密航の地に行ったことがある。松陰と弟子の像の下で撮った写真を今でも宝物にしている。

2・読書から

◆「何もないところから新しいものは生まれない。あらかじめ問題を熟知して者のみが偶然を幸運なチャンスに変換できる」〈渡邊雅子『論理的思考とは何か』岩波新書〉：アルキメデスもニュートンも常に問題意識を持って考え抜いていたからこそ、ある日突然、当たり前の事象の前で電撃のひらめきが全身を貫いた。日々の地道な努力が「ある日突然」の恩恵を。

◆「高ぶりは滅びに先立つ。謙虚は榮譽に先立つ」〈関根正雄『人類の知的遺産・古代イスラエルの思想家』講談社〉：旧約聖書の中の箴言である。よく聞く言葉であるが、血肉となり日常の行動に自然と表現できるかは疑問である。何事もシンプルな中に深淵さを秘める。

3・新聞から

◆「橋を架けることではなく、壁を築くことばかり考えている人はキリスト教徒ではない」〈朝日：社説・ローマ教皇死去〉：故ローマ教皇がトランプ氏の移民政策を批判して言った。「私ファースト」には神の声が届かない。壁は築くものではなく乗り越えるものである。

◆「平和は歩いてきてくれない。その火を消すな。どんどん薪をくべろ（作家・早乙女勝元）」〈朝日：声・平和のバトン〉：世界中どこかで暇なく戦火が続く。日本でも新たな戦前の兆候がちらほら聞こえる。戦いはコートの中で十分である。平和を墓の下まで持っていこう。

◆「遅く描けない人は遅く見ることもできません」〈朝日：折々のことば・山口晃〉：人の横顔の写真を上下逆にして描かせると描写はうんと正確になるとこの画家は言う。バスケのプレイもゆっくり正しくできない人は速く正確にできない&できない人ほど速くやる。

◆「どんな状況でも接戦をイメージしている」〈朝日：高校野球のメソッド・熊本工業監督〉：バスケは習慣のゲーム。接戦になってもビビらないために普段から接戦の状況設定で練習。